

事業所名	こども発達支援センターあすいろ				支援プログラム（児童発達支援）		作成日	7 年	3 月	20 日
法人（事業所）理念	こどもの将来性を高めることは、よりよい社会を作ることに関わり、社会的・経済的に有効な未来への投資である。									
支援方針	地域と共に、多様な子ども・家庭を見守り、多面的に支援する それぞれの目標に向けて旅立てるように寄り添う。									
営業時間	8 時		30 分から		17 時		30 分まで		送迎実施の有無	あり○ なし
支 援 内 容										
本人支援	健康・生活	目標： 基本的な生活習慣の習得と健康な身体づくりをサポートする 食事支援： 食事のマナー、箸やスプーンの使い方、偏食への対応、STによる嚥下訓練、離乳食アセスメント 身辺自立： 着替え、トイレトレーニング、手洗いの習慣化 生活リズムの確立： 自由遊びから片付け、朝の会ではリズム体操やランニング、活動から食事へのリズムを絵カードで掲示する。 健康教育： 性教育や基本的な体調管理								
	運動・感覚	目標： 基本的な運動能力や感覚統合を促進する 粗大運動： ジャンプ、走る、バランスをとる、ボール遊び、サーキット遊び 微細運動： 紙遊び、シール・糊・絵具やクレヨンを使ったカラーージュ遊び、パズル、ハサミ・折り紙を使った手先の遊び 感覚統合遊び： トランポリン、感触遊び（砂・粘土・片栗粉・小麦粉・スライム遊び） リズム運動： 音楽に合わせたダンス、リズム遊び								
	認知・行動	目標： 考える力、集中力、問題解決能力を育む 認知トレーニング： 数や色、形の認識、記憶ゲーム ルール理解・順序立て： コロコロドッチボール、大判オセロ、しっぽ鬼などを楽しみながらルールの理解を深める。 自己コントロール： 待つ練習、順番を守る、感情の表現方法 注意力の強化： 指示を聞く練習、視覚・聴覚の注意トレーニング								
	言語 コミュニケーション	目標： 言語の理解と表現、コミュニケーション能力を育成 言語理解：行動を言葉にして表現する。絵本の読み聞かせ、指示理解(全体指示・個別指示) 表現力：質問に対する答え、自己紹介、感想を言う練習 対人コミュニケーション： ペア活動、グループでの S S T、人の発表を聞く、人の意見に耳を傾ける、評価する。 非言語コミュニケーション： ジェスチャー、絵カードを利用								
	人間関係 社会性	目標： 他者を意識する。他者に興味を持てる。他者とコミュニケーションを取れる。 協調性の育成： グループ遊び、共同作業、人との距離感を意識する。 ルールの理解： 順番を守る、約束を守る、場面に応じた行動を意識する。 感情の認識と表現： 絵カードを使った感情表現、ロールプレイ、絵本の読み聞かせ 自己肯定感の向上： できたら褒める・望ましくない行動をしなかったら褒める、認める関わり								
家族支援	目標： 家族全体が子どもの特性や置かれている状況を理解し、安心して子育てができるように支援する。 保護者相談・カウンセリング： 送迎時や面談時に最近の児のようすを共有し、今後の支援方向について確認する。最近の困りごとを確認し、どういう対策を取ったらいいかを相談する。 ペアレントプログラム実施： 子どもや自分自身を行動で客観的に見つめなおす。親も子も自己肯定感を持てる。 家庭での支援方法の提案： 毎日の記録や面談を通して、児の特性に対する理解を深めていく。 親子通所を通して家庭環境に合わせた生活習慣の工夫、遊び方の提案・困った行動に対しての対処の方法について相談をしている。 情報提供・勉強会： 毎月のミニレクチャーを通して、児の特性や関わり方、就園就学などについて保護者に情報提供をしている。 発達障害の理解、療育の進め方、福祉サービスの利用方法に関する情報提供、保護者同士の情報交換・悩み共有のための座談会や交流会の実施									
地域支援・地域連携	目標： 子どもが地域社会でのびのびと生活できるよう、地域資源と連携する。 地域資源の活用： 地域の児童館、図書館、公園などを活用した社会参加の提供、児童館まつりへの参加を通じて社会性を育む 専門機関との連携： 医療機関（発達外来）、福祉機関（児童相談所）との情報共有と連携支援、地域の理解促進： 発達障害や特別な支援が必要な子どもへの理解を深めるための啓発活動 移行後のフォローアップ： 就学・進級後も地域での生活を支えるため、学校や地域施設と連携した継続支援									
主な行事等	年間行事 春：お花見散歩、豆まき、干潟散策 夏：水遊び・縁日ごっこ 秋：ハロウィン製作 冬：クリスマス・正月製作 体操教室：協調性、ルールの理解、体力の向上を 避難訓練：防災意識の醸成、非常時の行動訓練 行事の工夫とポイント 子どもの発達段階に応じた内容にアレンジ、保護者の参加を促し、家庭と支援施設の連携を強化、地域のボランティアとの連携で社会とのつながりを体験									
職員の質の向上	目標： 職員が専門性を高め、より効果的な支援を提供できるようにする 研修・勉強会の実施： 発達障害、感覚統合療法、行動療法などの専門知識を深める スーパーバイズ： 医師・心理士からの指導・アドバイスを受ける 自己評価・振り返りの実施： 定期的な自己評価とフィードバックを行い、支援の質を見直す									
移行支援	目標：無理なくスムーズに安心して就園・就学することができる。毎年保護者に対して就園・就学についての情報をレクチャーで共有している。就園・就学するときはサポートブックを作成し、就園・就学先で先生たちが困ったときに情報提供できるようにしている。就園後も園での困り感がないか情報収集を行い、モニタリング等で困りごとがないか話し合いを行っている。無理なく園に通えるように児童発達支援と併用しながら、無理なくステップアップできるようにしている。									